

学校図書館資料を活用した授業 「報告書を書く」(旭小学校)

① 報告書について知る

報告書を書くとき、最初に考えなくてはいけないことは、「報告書とは何か」という定義についてです。

「定義」というのは、義を定めると書きます。「義」は言葉の意味です。同音異義語という言葉がありますね。発音が同じで意味が違うということです。だから、この「義」は言葉の意味。「定」はきめるという意味をもっています。だから「定義」というのは、言葉の意味をきめるということ。

でもきめるには「決」の字もあります。「決」と「定」はどこが違うと思いますか。平仮名の言葉では、両方とも「きめる」です。日本の人は、言葉の意味を広い範囲で使います。中国の人は、少しでも意味が違うと言葉を作り、違う漢字を作りました。「決める」はピンポイントでここというときに使います。「リーダーを決める」といいますが「リーダーを定める」とはいいませんね。「定める」は、範囲のあるものをきめる時に使います。例えば、「法律を制定する。」です。こう考えると、両方の字を使ってある「決定」はとても強いということが分かります。

何か知りたいときには、その言葉の定義を探すと意味が分かるようになります。「報告書」が分からない時は、報告書の定義を探せばいいわけです。「報告」を平仮名の言葉でいうと、分からないことを調べて答えを見つけ、他の人に知らせる。「報告しなさい」といわれて意味が分からなくても「分からないことを調べて、答えが見つかったら人にそれをいいなさい」といわれたら分かりますね。その時、人に口で伝えたと「発表」、文字で書くとして「書」になります。だから「報告書」は「分からないことを調べて、答えを見つけて文字で人に知らせるもの」ということになります。これで報告書が何か分かりましたね。

この報告書の中の「分からないこと」を言い換えると「謎」です。だから報告書には、「謎」と「答え」が絶対に必要ということが分かります。どちらが欠けても報告書にはなりません。

② 謎を決める

報告書とは何かということが分かり、次に考えなくてはいけないのは、謎です。何について考えようかなというテーマです。テーマを決めるのに困ったら、大きいものから小さいものへ、だんだん絞っていくと決めやすくなります。例えば、動物について調べようと考えたら、動物の中でキリンにしよう。キリンの中の、首について調べようという風になります。食べ物なら、食べ物の中のお菓子、お菓子の中でもチョコレートについて知りたいな。宇宙なら、その中でも太陽系、その中でも木星。

それに「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「いくつ」「どうした」「なぜ」を合わせると謎を決めやすくなります。例えばキリンの首はなぜ長くなったのか？どうやって長くなっていくのか？首の骨の一本一本が長いのか、それとも骨がたくさんあるのか？みたいなことです。キリンの首の骨の数は、長い間7つだといわれていました。それが何年か前に日本人が8つ目の骨を見つけました。「キリン解剖記」という本があります。これは世界的な大

発見です。というわけでキリンの首の骨は、今は8つといわれています。こういうことが調べていくと分かるようになります。チョコレートはいつできたの？どこでできたの？誰が作ったの？何でできているの？どうやって作るの？なぜ人間はチョコレートを食べるの？世界中でチョコレートはどのくらい作られているの？日本はどのくらい作っているの？いくらくらい売り上げているの？この方法を知っていると、謎を作りやすくなります。

③ 答えを調べる

次は答えを調べます。今日は百科事典を使います。

百科事典というのは商標名、つまり商品の名前です。日本の百科事典を最初に作ったのは平凡社という出版社です。そこで新しく出来たこの商品を何と呼ぼうと考え、百科事典という名前をつけました。どういう風に考えたかという、「百」はたくさんを意味します。「科」は分野です。つまり、算数、社会、理科も音楽も全部入っているよということ。

「事」は出来事。「典」は古い言葉で本を意味します。百科事典というのは、たくさんの分野の出来事が書いてある本ですよという意味です。これが日本全国で、たくさん売れました。そして日本の人たちは、こういう本を百科事典というのだとってしまったのです。セロハンテープやホッチキスもそうですね。これらも、本当は商標名です。

ここにある百科事典はポプラ社がつくったものです。「かいけつゾロリ」などの本を作っている会社です。百科事典は、英語でエンサイクロペディアといいます。ポプラ社が作ったエンサイクロペディアなので、ポプラディアという名前をつけました。これから皆さんにポプラディアを使ってもらうわけですが、最初に分かってもらいたいことは、ここに12冊の本が並んでいるように見えますが、本当はセットで1冊ということ。これは1冊なのです。まとめて1冊に製本してしまうと、重たくて使い勝手が悪いので、これを適当に分けたのです。だから中には全部で25巻、50巻になるものもあります。



ポプラディア総合百科事典 新訂版



小学校4年生国語科の教科書(下) P52

百科事典に入っている言葉はあいうえお順に並んでいます。なにも印がないと、全部広げて探すこととなり大変ですね。だから、まず「背」に1・2・3…と数字をつけました。1と書いてあるものを1巻といいます。1巻の「背」に「あ・い」と書いてあるのは、あ・いから始まる言葉が載っているという意味です。まず百科事典を使うときに「背」を見て、自分が探している言葉がどの巻に入っているか探します。1巻から始まり11巻で終わります。では、12巻は何？12巻の表紙の題名を見ます。題名に索引と書いてあります。この本は、1巻から11巻まで全部の言葉が載っていて、その言葉が何巻の何ページに載っているか教えてくれます。12巻に載っていなかったら、その言葉はこの百科事典に採用されなかったということです。

では、ちょっとだけ練習してみましょう。アンパンマンは何巻に入っていますか？何巻に載っているか「背」を見て本を選び、小口を見ると、色のマークがついています。これ

を「つめ」といいます。アンパンマンが入っている「つめ」は何色の方ですか？アンパンマンは、このつめの中の初めの方と終わりの方どちらに載っていますか？ページを開くと、上の隅に平仮名4文字が書いてあります。これを「柱」といいます。そのページに載っている最初の言葉と最後の言葉の4文字です。誰か賢い人がこれ載せると便利だということをおもいついたのですね。「柱」があるおかげで、ページ中を全て読まなくても、探している言葉がこのページにあるか判断できます。アンパンマンは、このページにはありませんでした。このページより後ろにありそうですね。めくっていくと…ありました！

百科事典というのは、最初の「。」までが定義です。例えば、アンパンマンはこう書いてあります。「やなせたかし作の絵本『それいけ！アンパンマン』の主人公。」これでアンパンマンというのは、パンではないということが分かりました。主人公だったのだと。

何かを調べる時に、最初に使うのは、この百科事典がおすすめてです。なぜかというところ、百科事典には定義が書いてあるからです。何かを調べる時に、それが何なのか分からないと考えることができません。だから「縄文時代」を調べたいと思ったら、最初にやることは、百科事典で縄文時代を探し、縄文時代の定義を読むことです。言葉で書いてあるので理解できます。もう一ついいことは、人に説明できるようになります。書いてあることを、そのままいえばいい。「縄文時代は～。」と言語化すると物事を具体的に捕まえることができるようになります。

④ 報告書を書く

百科事典の使い方が分かり、答えを見つけました。

では、どうやって報告書を書くか。A4の紙を縦にして、文字は横書きです。これが国際ルールなので、世界中どこの国でも同じです。報告書に絶対必要なものは、「謎」と「答え」でした。それから、誰が書いた報告書が分かるように「名前」を書きます。名前とセットで「所属」というものがあります。これはどこのグループに属しているかということで、皆さんの場合は旭小学校〇年〇組が所属です。そして「日付」です。これがすごく重要です。なぜかというところ、世界は毎日変わっているからです。誰かが何かを発言したり、発見したり証明したりすると物事が変わります。自分が調べたことは、その時は正しかったかもしれないけれど、今は間違っているということがあります。だから日付はすごく大切です。そして最後に二重かぎかっこで、自分が使った本の題名を書いて、何ページか書きます。これを「出展」といいます。私が使ったこの情報は、この本から出しましたという意味です。これらが一つでも欠けると皆さんの報告書は受け取ってもらえません。

さあ、これで報告書を書くことの確認は終わりです。これから、手作りの謎カードを配ります。百科事典で謎の答えを調べて、報告書が書けたら持ってきてください。